

科目名	日本史 B	使用教材	教科書 「詳説日本史 B」 (山川出版社) 副教材 詳説日本史学習ノート上 (山川出版社)
単位数	2年次：2単位 (4単位のうち) ベーシック (選択必修)	評価方法	定期考査・小テスト 授業への取り組みの様子 (参加の仕方・忘れ物など) 提出物 (課題・プリント・ノートなど)

### 学習到達目標

- ◆ 日本史の流れや時代の特色を、世界史とのかかわりや、政治・経済・社会・文化などの関連性を考えながら、総合的に調べ、理解することを通して、自国の文化と伝統の特色について認識を深める。それをもとに広い視野に立った思考力を身につけ、日本の国民としての自覚と、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
- ◆ なぜそのようなことをしたのか、なぜそのようなようになったのかなど、歴史的事象の原因や理由、その結果や影響を考えることによって、わが国の歴史について認識を深め、歴史的思考力や洞察力を養う。
- ◆ 歴史がどのように流れ、先人がその中でどのような努力を重ねてきたかを学ぶことにより、今の自分の生き方を見つめ、いかに生きるべきかを考える材料にする。
- ◆ 様々な歴史的事象への興味や関心を深めながら歴史の学習法の基礎を身につけ、生涯にわたって自ら学び続ける基盤をつくる。

### ★授業について

- ・授業は主に基本事項の確認と流れをつかむ学習です。内容によっては調べ学習やレポートを課す場合があります。また、授業だけでは絶対に定着しませんので、以下のような方法で自主学習、家庭学習を行ってください。
- ・学習ノートは( )に答えを書き込まないこと。教科書で太字となっている重要語句や重要な史料にはアンダーラインを引くなどして整理しましょう。
- ・授業中に解説した内容はこまめにメモをとり、参考にしてください。また、ノートの穴埋めと板書を写すだけでなく、基本的には授業で学習した内容はその時間のうちに覚えるつもりで積極的に取り組みましょう。
- ・毎時間、授業のはじめに基本語句の小テストを行います。教科書の太字部分や問題演習で繰り返し出題される語句は用語問題集にもチェックを入れておきましょう。

### ★自主学習について

日本史は暗記科目と思われがちですが、暗記するだけでは身につけません。むしろ、ある出来事が起こった時代背景や流れを理解することで自然に頭に入っていく場合が多いと思います。①自分なりに整理して独自のまとめノートを作ること、②教科書を繰り返し読むこと、③歴史に関する本を読むことにより、知識と理解が深まります。また、歴史用語は必ず漢字で書きましょう。

#### ◎予習

教科書を読む。

#### ◎復習

教科書を参考に、要点整理ノートの( )にあてはまる語句を調べて解答欄に記入する。

重要語句を確認しながら教科書の範囲を2回どおり読む。

\*以上の予習・復習は、短時間でもよいので授業の前後に必ずすること。次回の授業で確認のための小テストを行います。

### ★その他

最近では歴史を題材にしたドラマやテレビ番組も多く放映されています。歴史への興味を深めるために積極的に見

てみましょう。

### ★大学入試について

国公立大学入試センター試験では、単なる歴史的事象の暗記だけでは得点できません。時代的位置づけや因果関係を理解しておかなければなりません。史料問題や図・写真を利用した問題も必ず出題されていますが、教科書に載っているものを知っていればほとんど問題はあります。センター試験は教科書を確実に学習することが対策につながります。

国公立の2次試験や難関の私立大学では論述形式で出題されることが多くなりますので、暗記に終わることなく歴史の因果関係を理解しておくことが必要です。私立大学ではかなり細かい事象に関する問題もありますが、センター試験のようなマーク式の出題も多いので、まずは教科書で基本をおさえておくことが大前提です。

### ★就職試験について

一般常識で基本的な日本史の知識が問われます。また、歴史上の人物には優れた考えや思想を持った人も多いので、知識としてもっておくと面接の話題や作文などでも役立ちます。

## 学習の計画（前期） ●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		1-1 文化のはじまり	自然環境の変化や東アジア世界と関連づけて、旧石器・縄文・弥生・古墳の各時代の推移を理解する。	●旧石器文化・縄文文化の特徴 ●弥生文化の特徴 ●小国の分立とヤマト政権 ●大陸文化の受容 ◆聞く姿勢・話す姿勢の徹底 ◆チャイムによる切り替え
		1-2 農耕社会の成立		
		1-3 古墳とヤマト政権		
5		第1章のまとめ 単元テスト：第1章	ヤマト政権による国家統一の過程を理解する。	●律令国家の成立 (大化改新・白鳳文化・律令) ◆家庭学習の定着 ●平城京時代の政治の変遷 ●天平文化の特徴
		2-1 飛鳥の朝廷		
		2-2 律令国家の成立		
		2-3 平城京の時代		
		2-4 天平文化		
6		2-5 平安朝廷の形成 第2章のまとめ 単元テスト：第2章	中央集権国家形成の過程、律令国家の確立と構造、律令国家の展開を東アジア世界との交流と関連づけて理解する。	●平安初期の政治改革 ●平安時代の仏教の特徴
		3-1 摂関政治		
		3-2 国風文化		
7			摂関政治の確立過程の考察を通じて、王朝国家の形成・展開を、東アジア世界の変化と関連づけて理解する。 従来の大陸文化を消化し、日本の風土・生活に適応した新	●藤原北家の台頭 ●摂関政治の確立 ◆日本文化の特徴とよさに触れる

8	【前期考査】 課題研究	しい文化の展開を理解する。  自分が住む地域の歴史と文化に親しむ。	◆積極的に調べ学習に取り組む *地域の偉人の生き方を学ぶ
9	3-3 荘園と武士  4-1 院政と平氏の台頭  4-2 鎌倉幕府の成立  4-3 武士の社会  授業評価と各自の反省	荘園・公領制の成立と武士の台頭を、東アジア世界や地方の動向を関連させながら考え、中世社会が芽生えつつあることを理解する。  武家政権の形成過程や武士の地方支配の進展を、公武の対抗関係と関連づけて理解する。	●荘園の発達 ●武士の成長と源氏の台頭  ●院政 ●源平争乱 ●鎌倉幕府のしくみ ●執権政治  *ここまでの学習への取組み方について振り返る

### 学習の計画（後期）

10	4-4 蒙古襲来と幕府の衰退  4-5 鎌倉文化  第4章のまとめ 単元テスト：第4章	宋・元など東アジア世界とのかかわりが、政治・経済・鎌倉文化に及ぼした影響を理解する。  日明貿易など東アジア世界との交流、地域の動向、庶民の台頭を考察することを通じて、守護大名、町と惣村、一揆、下剋上など、中世社会の多様な展開を理解する。	●元寇と幕府の滅亡  ●鎌倉文化の特徴と新仏教
11	5-1 室町幕府の成立  5-2 幕府衰退と庶民の台頭  5-3 室町文化 5-4 戦国大名の登場	禅宗文化の伝来が武家文化の進展に果たした役割、武家文化と公家文化の関わり、庶民文化の芽生えを理解する。	●建武の新政 ●南北朝の動乱と応仁の乱 ●一揆  ●北山文化と東山文化
12	第5章のまとめ 単元テスト：第5章 6-1 織豊政権  6-2 桃山文化 6-3 幕藩体制の成立 冬休み課題 本を読もう！	戦国大名の領国支配を各地域の実情と関連づけて理解する。  織豊政権・幕藩体制の特色と推移、社会と文化の動向を、ヨーロッパ諸国のアジア進出に伴う国際関係の変化・影響	◆日本文化のよさについて考える ●戦国大名の統治 ◆戦国武将の生き方に学ぶ  ●ヨーロッパ人の来航 ●天下統一の過程 ●桃山文化の特徴
1	第6章のまとめ		◆江戸幕府の成立

2	単元テスト：第6章 7-1 幕政の安定 7-2 経済の発展 7-3 元禄文化 第7章のまとめ 単元テスト：第7章 【学年末考査】 授業評価 各自の反省	と関連づけて理解する。特に石高制・兵農分離・鎖国を原理とする幕藩体制の確立を、織豊政権の統一政策と関連づけて理解する。 幕府・諸藩による文治政治のもとで、農業や商工業など、諸産業が相互に関連しながら発展していることを理解する。また、町人文化の形成を都市の経済的な繁栄や町人の社会的台頭と関連づけて理解する。	◆江戸時代の身分秩序 ◆鎖国 ◆元禄時代はどのような時代か ◆正徳の治 ◆各種産業の発達 (農業・手工業・運輸・交通など) ◆元禄文化の特徴 * 1年間の反省
---	---	--	--

## 重要語句 (キーワード)

【第1章】 更新世・完新世・ナウマン像・打製石器・磨製石器・石包丁・高床倉庫・鉄製農具・竪穴住居・貝塚・環濠集落・土偶・支石墓・岩宿遺跡・大森貝塚・吉野ヶ里遺跡・登呂遺跡・楽浪郡・奴国・光武帝・『後漢書』東夷伝・『魏志』倭人伝・卑弥呼・「親魏倭王」・高句麗・『宋書』倭国伝・前方後円墳・群集墳・埴輪・須恵器・太占・盟神探湯・屯倉・田部・田荘・部曲

【第2章】 推古天皇・伽耶・蘇我馬子・厩戸王・冠位十二階・憲法十七条・蘇我蝦夷・蘇我入鹿・孝徳天皇・難波宮・白村江の戦い・庚午年籍・近江大津宮・壬申の乱・天武天皇・飛鳥浄御原宮・八色の姓・飛鳥浄御原令・持統天皇・藤原京・大宝律令・律令・太政官・中務省・式部省・民部省・里長・租庸調・雑瘍徭・衛士・防人・義倉・出挙・運脚・戸籍・計帳・口分田・条里制・法隆寺・飛鳥寺・鞍作鳥・興福寺仏頭・額田王・高松塚古墳壁画・大津皇子・柿本人麻呂・元明天皇・藤原不比等・長屋王・平城京・三世一身法・聖武天皇・藤原四子・橘諸兄・玄昉・藤原仲麻呂・道鏡・橘奈良麻呂・光仁天皇・藤原百川・正倉院・行基・鑑真唐招提寺・大学・国学・古事記・太安万侶・懐風藻・万葉集・勘解由使・長岡京・平安京・坂上田村麻呂・胆沢城・蔵人頭・檢非違使・格式・令義解・官田・公営田・最澄・空海・勸学院・綜芸種智院・室生寺曼荼羅・『凌雲集』・三筆

【第3章】 藤原良房・清和天皇・承和の変・橘逸成・応天門の変・伴善男・菅原道真・醍醐天皇・安和の変・源高明・摂政・関白・藤原道長・藤原頼道・藤原純友・刀伊の入寇・奥州藤原氏・棟梁・家子・受領・在庁官人・名・領家・後三条天皇・延久の荘園整理令・記録荘園券契所・白河上皇・保元の乱・平治の乱・藤原通憲・壇ノ浦の戦い・福原京・源信・『往生要集』・平等院鳳凰堂・寄木造・大和絵・『枕草子』・中尊寺金色堂・扇面古写経・今様・『梁塵秘抄』・侍所・問注所・守護・地頭・北条時政・和田義盛・北条義時・後鳥羽上皇・六波羅探題・北条泰時・北条時頼・評定衆・引付衆・政所・体犯三か条

【第4章】 北条時宗・北条定時・永仁の徳政令・二毛作・三斎市・問丸・為替・借上・地頭請所・下地中分・法然・浄土真宗・唯円・『教行信証』・時宗・『立正安国論』・法相宗・円覚寺・西行・『方丈記』・『徒然草』・道理・『愚管抄』・東大寺

【第5章】 後醍醐天皇・六波羅探題・新田義貞・二条河原落書・光明天皇・建武式目・足利義満・山名氏・大内氏・足利義教・赤松満祐・山城の国一揆・加賀の一向一揆・足利義満・明・李氏朝鮮・足利義持・応永の外寇・尚巴志・明銭・永楽通報・地下請・地侍・撰銭・小田原・上杉謙信・一乗谷・毛利元就・甲州法度之次第・猿楽能・大和四座・南禅寺・『閑吟集』・『神皇正統記』・『庭訓往来』・二条良基・宗祇

【第6章】 フランシスコ＝ザビエル・延暦寺・足利義昭・安土城・石山本願寺・鉄砲隊・太閤検地・関白・刀狩令・文禄慶長の役・濃絵・千利休・活字印刷技術・徳川家康・徳川秀忠・徳川家光・武家諸法度・大坂夏の陣・譜代大名・旗本・大目付・紫衣事件・後水尾天皇・隠元・五人組・小物成・田畑永代売買の禁令

【第7章】 ポルトガル・オランダ・イギリス・奉書船・己酉条約・宗氏・朝鮮通信使・島津氏・鎖国・徳川家綱・慶安の変・末期養子の禁・徳川綱吉・林信篤・生類憐みの令・荻原茂秀・新井白石・長崎貿易・備中鯨・唐箕・宮崎安貞・鱒漁・蔵物・蔵元・掛屋・二十四組問屋・十組問屋・河村瑞軒・角倉了以・金貨・銀貨・坂田藤十郎・尾形光琳・菱川師宣・松尾芭蕉・林羅山

科目名	社会科 世界史B	使用教材	教科書 『詳説世界史B』（山川出版社） 副教材 『詳説世界史学習ノート上』（山川出版社）
単位数	2年：2単位 ベーシックコース	評価方法	定期考査，単元テスト 授業への取組み（積極的な学習態度や取組み等） 課題の提出

### 学習到達目標

- ・世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解する。
- ・文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって，歴史的思考力を培う。
- ・国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### ★授業について

世界史の教科書は，同時代の各地域のつながりを中心に記述してあるので，日本史の縦に流れていく歴史とは異なります。今自分が勉強しているのはどの地域で，何世紀頃の話か，ということを常に念頭に置いて授業を受けましょう。

### ★自主学習について

世界史を楽しく学べるようになるには，先ずはいろいろなものに好奇心を持つことが必要です。マンガ・小説・テレビ等，歴史に触れる機会を増やしましょう。

世界史は暗記が大きなウェイトを占めます。自分のノートを作り世界史の用語を書いて覚えましょう。何度でも繰り返すことがポイントです。

### ★評価について

評価の観点

- ①歴史について興味・関心を持ち，これを追求しようとする意欲や姿勢があるか。（関心・意欲・態度）
- ②現代の諸課題を歴史的・系統的な視点から思考し判断する力があるか。（思考・判断）
- ③歴史に関する諸資料をさまざまな方法で収集し，有用な情報を主体的に選択し，活用できるか。（技能・表現）
- ④世界の各地域及び時代を歴史的な事象と関連づけて理解し，その知識を身に付けているか。（知識・理解）

# 学習の計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単元	目標	学習の要点
4		世界史への扉 序章 先史の世界		◆自ら家庭学習の計画を立て、継続することができる
5		第 1 章 オリエントと地中海世界	西アジア・地中海世界の風土、オリエント文明の盛衰、エーゲ文明、ギリシア・ローマ文明に触れ、	●古代オリエント世界 ●ギリシア世界 ●ローマ世界
6		第 2 章 アジア・アフリカの古代文明	西アジア・地中海世界の特質を理解する。	
7		第 3 章 東アジア世界の形成と発展	南アジアの風土、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の文化、社会、国家の発展に触れ、南アジア世界の形成過程を理解する。	●インドの古典文明 ●東南アジアの諸文明 ◆考査試験に対する姿勢や学習の仕方 を考へることができる
8		第 4 章 内陸アジアの変遷	東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と	●中国の古典文明
9			秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を理解する。	●南北アメリカ文明 ●北方民族の活動と中国の分裂 ●東アジア文化圏の形成 ●東アジア諸地域の自立化 ●遊牧民とオアシス民の活動 ●トルコ化とイスラーム化の進展
10		第 5 章 イスラーム世界の形成と発展	アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成、拡大の過程を理解する。	●モンゴル民族の発展 ●イスラーム帝国の成立 ●イスラーム世界の発展 ●インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化
11		第 6 章 ヨーロッパ世界の形成と発展	ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開、西ヨーロッパの封建社会、都市の発達と王権の伸長に触れ、	●イスラーム文明の発展 ●西ヨーロッパ世界の成立 ●東ヨーロッパ世界の成立
12		第 7 章 諸地域世界の交流	キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を理解する。	●西ヨーロッパ中世世界の変容 ●西ヨーロッパの中世文化
1		第 8 章 アジア諸地域の繁栄	内陸アジア諸民族がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割を理解する。	●陸と海のネットワーク ●海の道の発展
1		第 9 章 近代ヨーロッパの成立	明・清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向に触れ、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。	●東アジア・東南アジア世界の動向 ●清代の中国と隣接諸地域 ●トルコ・イラン世界の展開
2		第 10 章 ヨーロッパ主権国家の展開	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易にふれ、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	●ムガル帝国の興隆と衰退 ●ヨーロッパ世界の拡大 ●ルネサンス ●宗教改革 ●主権国家体制の形成 ●重商主義と啓蒙専制主義 ●ヨーロッパ諸国の海外進出 ●17～18世紀のヨーロッパ文化
		第 11 章 欧米における近代社会の成長	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革に触れ、産業社会と国民国家の形成を理解する。	●産業革命 ●アメリカ独立革命 ●フランス革命とナポレオン
				※生涯にわたって学ぼうとする態度が育っている

科目名	社会科 科目：地理B	使用教材	教科書 『詳説新地理B』（二宮書店） 副教材 『新高等地図』（東京書籍）
単位数	2年生：2単位 ベーシック3コース（選択）	評価方法	定期考査，単元テスト 授業への取組み（積極的な学習態度や取組み等） 課題の提出

### 学習到達目標

- ・現代世界の地理的事象を系統地理的，地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養う。
- ・地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### ★授業について

教科書だけでなく，地図帳・地球儀を使用して「地理」に関する題材や最近の出来事を地理的に取り上げる。国際社会に生きる日本人として役立つ地理的技能や知識を身につけるとともに，地理的な見方・考え方を身につけることを目的とする。

### ★自主学習について

予習…次の時間に学習する教科書・資料を読み分らない所を調べておく。

復習…学んだことを忘れないように，宿題のプリントでポイントを確実に理解する。

### ★評価について

評価の観点

①現代世界の地理的事象について関心を高め，主体的，意欲的に課題を追求したか。

よりよい国際社会の実現に向けて，主体的に行動する態度が身に付いたか。（関心・意欲・態度）

②現代世界のさまざまな事象を地理的事象としてとらえ，課題を見出すことができたか。（思考・判断）

③地図や統計，画像などの情報を収集，活用することができたか。（技能・表現）

④現代世界の地理的事象について理解し，その知識を身に付けているか。（知識・理解）

月	週・時	単元	目標	学習の要点	
4		第 I 章 現代世界の系統地理的考察 第 2 節 自然環境        第 3 節 資源と産業        第 4 節 都市・村落と生活文化	大地形の類型・分布の類似性・規則性を理解し、地下資源・地震・火山の分布との関連性に気づく。地形図を活用し小地形と土地利用の関連性を理解し、人間生活とのかかわりを考察する。	◆自ら家庭学習の計画を立て、継続することができる ●地形からみた世界	
5			大気の大循環・水の循環・海流と、世界の気候分布の関連性を理解する。世界の気候区分の方法と各気候区の特徴を理解し、人間生活とのかかわりを考察する。	●気候からみた世界	
6			世界の自然環境に関する分布図を活用し、世界の自然環境が地形・気候・植生・土壌などの自然的要素の結びつきによって形成されていることを理解する。	●総合的な自然環境からみた世界 ◆考查試験に対する姿勢や学習の仕方を考えることができる	
7			世界の農業地域の特色を自然的条件や社会・文化的条件との関連性を通して理解し、水産業とともに地域の人々の生活を形成してきたことに気づく。	●農業からみた世界	
8			エネルギー・原料資源の生産・分布の偏在性に気づき、生産国と消費国それぞれの産業構造の特色の傾向とエネルギー・原料資源の国際的流通の関係を理解する。	●エネルギー・原料資源からみた世界	
9			工業地域の形成に共通する立地条件に気づき、条件の変化による立地移動を考察するとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。	●工業からみた世界	
10			村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることに気づく。	●都市と村落からみた世界	
11			地域の文化の構成要素として宗教と言語の分布について理解し、文化の複雑性に気づく。また、伝統的衣食住の地域性と国際化に伴う変容について理解する。	●衣食住からみた世界	
12			実地調査可能な地域における地域調査の方法・手順を理解し、地域性をとらえる視点を身につける。	※互いに課題について話し合い、その内容を発展させることができる ●学校所在地を調べる-浦安市の高校を例に	
1			実地調査できない地域における地域調査の方法・手順を理解し、地域性をとらえる視点を身につける。	●外国の都市を調べる-ヴァンクーヴァー ※生涯にわたって学ぼうとする態度が育っている	
2					